



淵端に釣りざおを差して

「まだちょっと肌寒いんですが天気が良いので来てみました、五頭連峰を望む福島潟を訪れるつり人は、これらが本番のようです。  
(4月20日、福島潟西部揚水機場前で)



「赤はトマレですよ」

県警の交通安全教育車「ゆきつばき号」が、4月20日、つくし保育園と豊栄幼稚園を訪問。園児たちは、警察のおねえさんから、腹話術や劇を通して交通ルールを学びました。(つくし保育園で)



道路にゴミを捨てないで!

早通南小学校の児童と父兄が、4月14日、通学路の清掃。空き缶などのゴミの多さにあきれていました。



高森薬師に願かけて

高森の春祭り、参拝者の前にお姿を現わした薬師如来像。十二支最初の子年にだけ行われるご開張とあって、近郷近在から心願成就を祈願する人で込み合いました。



(17)

民家のつくり方さまざま

豊栄市の地形は、わかりやすくいうと、カレー皿のようになってます。北は砂丘地、西は阿賀野川の自然堤防、東、南ははるか五頭連峰にかこまれ、内部は、くぼんでいてそこが低湿地帯になっています。

民家のつくり方については、各地区には、あまりちがいが見られないようですが、土地の高低によって多少の差異が見られます。

例えば、民家の土台になるジジョウの土盛り(ジジョウモチ)のことです。低湿地帯の高森部落では、ジジョウを高く盛りあげます。地縁、血縁の人たちが田や畑、家



正尺 近藤次太郎さんの蔵(シイナグラ)

の周囲から土砂を運搬するため、時には、ほられたあとが、ところどころ池のようになることもあったということ。正尺部落では、母屋より更に一段と高くジジョウを盛り、そこに蔵をおいています。この蔵をシイナグラといっているようですが、米、穀類、夜具、道具類をおき、水害の時の避難場所にも使っていたとのこと。木曾川流域の輪中地帯に見られる「水屋」に相当しているようです。昭和四十一年、昭和四十二年の豊栄水害の時です。

え、母屋が床上浸水でも、蔵は全く大丈夫であったといえます。一般に低湿地帯ほどジジョウを高くもりあげ、その上、ジャリガチ、イシガチ、ドウツキなど、土台ごしらえに意を用いているようです。砂丘地帯での民家のジジョウモチは、比較的、簡略のようです。民家も水との格闘を演じているわけです。

一方、新井郷部落では、間取から民家を右家とか左家とか言っています。右家というのは、玄関に向かつて右側に床の間、仏壇がある家、左家とはこれと反対に左に床の間、仏壇のある家、三十九戸が左家、七戸が右家となっています。したがって囲炉裏の座は、左家では、ウワザの右が客座になり、右家では、左が客座になるわけです。このように同じ部落内に右家、左家があることは興味のかれることです。

市史調査員 高橋忠

表紙のことは

五月の連休にかけて、木崎地区のチューリップ畑では、花摘み作業が行われました。樋ノ入の阿部一蔵さん宅でも、七月の球根出荷に向けて、花摘み作業に懸命でした。

編集室

▽ 今月号は、市外から転入してきた団地の主婦を取材しました。住めば都というように、新しい土地の環境にもなじみ、年々地域に溶け込んでいく様子が感じられました。ただ、レジャーを兼ねた買い物は、隣りの新潟や新発田へ行く人が多いとか。

▽ 取材の途中、市内にも桜の花の見どころはないかと見て回りました。学校の校庭や神社の境内、博物館脇の葛塚東部緑道など何か所がありました。その中で今年に間に合いませんが、皆さんに一番お薦めしたい所は、本紙に掲載した新潟競馬場横の公園です。